

医療保険制度の仕組み

わが国の医療保険制度は、すべての国民が何らかの公的医療保険に加入し、お互いの医療費を支え合う「国民皆保険制度」です。高齢化や医療技術の発達によって、医療費が年々増え続けるなか、将来も制度を維持していくには、一人ひとりが健康への意識を高め、医療費を節約していくことが重要です。

働いている人が病院の窓口で支払う金額は、かかった医療費の3割*。
残りの7割は、皆さんと事業主が納める健康保険料から支払われています。

*年齢によって割合が異なります。

医療保険の1/4を占める 健保組合

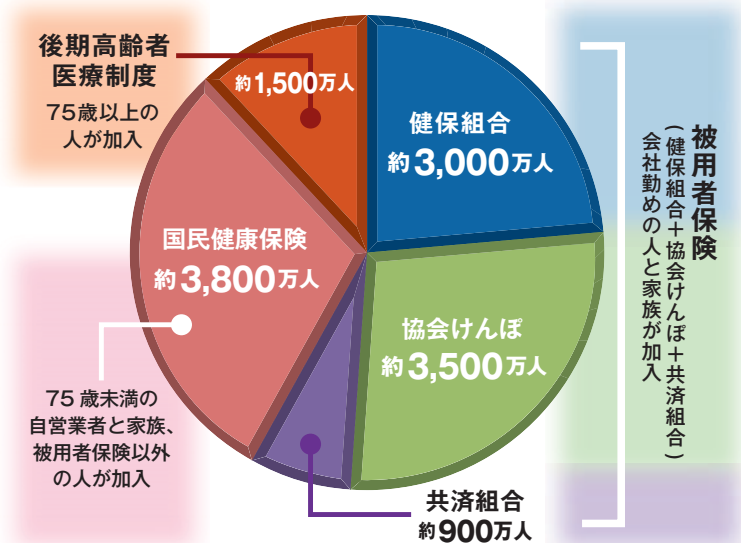
給与明細にある「健康保険料」の支払い先は、皆さんが加入する「健保組合*」です。

皆さんと事業主から納めていただく健康保険料は、医療費の支払いや、皆さんの健康の保持・増進のための保健事業、高齢者の医療費を支えるための拠出金などに使用されています。

※加入先は、健康保険証の保険者名で確認できます。

わが国の国民医療費の総額は、年間38兆円と莫大な額に膨らみ、毎年1兆円ずつ増え続けています。現在の仕組みのままでは、国民皆保険制度を支えることが難しくなっています。

【公的医療保険と加入者数】



*2013年版厚生労働白書より

健康の保持・増進は、自身のため、家族のため、そして未来の医療保険制度のためにも重要です。

健保組合・健保連は、

- 今後も各種健診の実施や、健康教室の開催など、皆さんの健康サポートを行います。また、健診データなどを分析し、効果的な健康サポートに努めます。
- 医療費財源を有効に使うためにも、医療費適正化に向けた活動を続けていきます。